

大学・高専機能強化支援事業（支援2：高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）
【大学 一般枠、特例枠】実施状況報告書

選定年度	令和5年度	学校コード	F113310102966	改組内容	研究科等の設置・増員＋学部等の設置・増員（特例枠）
大学名	北里大学	設置区分	私立	事業計画名	「生命科学×データサイエンス」教育・研究を加速させる「知のネットワーク形成」プログラム（北里大学）
学校種	大学	都道府県	東京都		

1.年度別の計画及び取組状況

年度別の事業計画（上欄：研究科等の設置等及びその準備（設置認可申請等）、下欄：教育環境の整備（施設整備、教員採用等）、教育活動の充実等の取組）と取組状況及び自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。

計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
令和5年度	【情報系組織の入学定員】＜学士＞100人 未来工学部データサイエンス学科 入学定員100人 8月 未来工学研究科生命データサイエンス専攻（修士課程）設置認可予定 9月 未来工学部データサイエンス学科 定員変更届出予定	【情報系組織の入学定員】＜学士＞100人 未来工学部データサイエンス学科 入学定員100人 9月 未来工学研究科生命データサイエンス専攻（修士課程）設置認可 9月 未来工学部データサイエンス学科 定員変更届出	R5年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。
	①8月末：未来工学研究科生命データサイエンス専攻（修士課程）（定員10名）設置認可予定 ②9月下旬：未来工学部データサイエンス学科 定員増（100名→120名）に係る学則変更届出予定 ③12月：ローベルト・コッホ研究所との協定更新に伴う、研究交流加速と具体的な体制を整備する。 ④12月～3月：大学院博士後期課程レベルの教育・研究内容について設置に向けての具体的な検討を推進する。特に社会人入学の博士後期課程学生に関して、学位論文の課題を職場から持込むことを奨励し、現場での具体的な問題をデータサイエンスを用いて解析し、その結果を現場にフィードバックできるように奨励する。その結果を学術的成果として博士学位論文に反映させることができるように、知財や職場及び大学で得た情報の管理方法などを含めて検討する。 ⑤12月～3月：学部の入学定員増に伴い、専任教員を増員することを計画する。そのためのリクルート活動を実施する。	①9月上旬：未来工学研究科生命データサイエンス専攻（修士課程）（定員10名）設置認可 ②9月下旬：未来工学部データサイエンス学科 定員増（100名→120名）に係る学則変更届出 ③2月上旬：研究力加速の一環として、Academia Sinica（台湾）でのインターンシップの実施について担当者間で合意、2024年度に夏期休暇を利用し大学院生を派遣予定。また、CSIRO（豪州連邦科学産業研究機構のデータサイエンス部門Data61）との連携（学生派遣の可能性を含め）について先方の担当者との検討を開始した。 ④10月～3月：2024年度開設予定の研究科修士課程に、企業からの入学者（社会人特別選抜は実施していないため、一般入試での受験）があり、現職における研究の持込みを含めた研究内容の擦合わせ、勤務先とのエフォートのバランス、知財や職場及び大学で得た情報の管理方法について、検討を開始した。 この社会人受入れを事例として、博士後期課程の設置認可申請に向け、制度としての具体化を図っていく。 ⑤9月～3月：学部の定員増に伴い大学設置基準上の人員を確保するため、文部科学省大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC）を12月に申請し、2月に適格の認定を受け、3月に学内で未来工学部教授との打合せを実施した。2024年9月任用予定。		
令和6年度	＜修士＞10人、＜学士＞120人 4月 未来工学部データサイエンス学科 20人増員予定（入学定員120人） 4月 未来工学研究科生命データサイエンス専攻（修士課程）開設予定（入学定員10人） 3月 未来工学研究科生命データサイエンス専攻（博士課程）設置認可申請予定 ①4月～10月：修士課程及び博士後期課程での教育・研究のために必要な計算機環境について、実際に修士研究課題に取組みながらサーバースケールアップの計画を検討する。特に、人工知能研究におけるハイパーパラメータのチューニングなどでどれだけの計算量が必要とされるかを具体的な問題で検討し、修士課程の定員増と博士後期課程開設に向けての準備を行う。 ②4月～12月：前年度に引き続き、専任教員を増員することを計画する。そのためのリクルート活動を実施する。 ③3月：未来工学研究科博士後期課程（定員5名）：設置認可申請予定	＜修士＞10人、＜学士＞120人 4月 未来工学部データサイエンス学科 20人増員（入学定員120人） 4月 未来工学研究科生命データサイエンス専攻（修士課程）開設（入学定員10人） 3月 未来工学研究科生命データサイエンス専攻（博士課程）設置認可申請 ①4月～：修士課程及び博士後期課程での教育・研究のために必要な計算機環境について、WGを設置し、次年度のサーバースケールアップ計画に向け、特に、人工知能研究におけるハイパーパラメータのチューニングなどでどれだけの計算量が必要とされるかを等、具体的な検討を継続している。 ②4月～2月：前年度に引き続き、専任教員を増員することを計画する。そのためのリクルート活動を実施した。その結果、想定より6月滑りリクルートが進み、2025年度の増員に向けて、文部科学省によるAC教員審査を受審した結果、学部5人・修士課程4人の新規任用について「適格」の判定を受けることができた。 ③3月7日付で、未来工学研究科博士後期課程（入学定員5名）の設置認可申請を行った。	R6年度自己評価	【2】計画を十分に実施していない。 教員確保、博士後期課程の設置認可申請については計画通り実施できたものの、自動化実験装置導入に係る工事の必要性等から、さらに時間を要する状況となり、サーバースケールアップ計画に関する検討については令和6年度において十分に議論をすることができず、令和7年度に継続することとなったことから、「十分に実施していない」と自己評価した。
令和7年度	＜修士＞10人、＜学士＞120人 8月 未来工学研究科生命データサイエンス専攻（博士課程）設置認可予定		R7年度自己評価	リストから選択してください。
	①4月～3月：前年度の検討結果を踏まえ、サーバーをスケールアップする。また、今後の生命科学の動向として、実験室環境の自動化が飛躍的に進み、それによりウェアラバイオロジーにおけるデータ量の増大やデータ精度の急速な向上が望まれることを念頭に、これまで実験を行ってこなかったデータサイエンティストに自動化環境で実験を行うことを経験させ、自動化環境を制御するバイオエンジニアリングのためのデータサイエンスを目指した自動化実験機器（産業用ロボット「まほろ」等）を導入しバイオ自動化実験を可能とする。 ②4月～3月：学部の入学定員増に伴い、専任教員を増員する。特に、年齢・性別が異なる教員集団を配置することを企図し、向こう20年以上にわたって責任を持って本研究科・学部での教育に責任をもって当たることが可能な若手教員の採用を進める。そのためにも、専任教員として任用し、専任化を進める計画とする。 ③5月～9月：留学生獲得に向けて、本学の海外協定校に働きかけ、特に環境問題に関心が高いと思われるアジアの各校から留学生を迎え「未来工学部研究室インターンシップ」を実施する。海外の学部2・3年生をインターンシップ生として招き、未来工学部の国際化推進及び本学の学生との間にデータサイエンスの学びにおいてシナジー効果を醸成する。 ④8月末：未来工学研究科生命データサイエンス専攻（博士後期課程）（定員5名）：設置認可予定 ⑤3月：未来工学研究科生命データサイエンス専攻（修士課程）：第1期生修了			
令和8年度	＜修士＞5人、＜修士＞10人、＜学士＞120人 4月 未来工学研究科生命データサイエンス専攻（修士課程）定員変更届出予定		R8年度自己評価	リストから選択してください。
	①4月：未来工学研究科生命データサイエンス専攻（修士課程）定員増（10名→45名）に係る学則変更届出予定 ②4月：修士課程の増員と博士後期課程の開設を迎えるため、前年までに準備してきたサーバー環境と実験自動化について、それらの利用する教育・研究を実際にも実施し、教育内容の充実を図る。併せて、細胞状態を大規模かつ網羅的に調べるラベルフリーイメージングシステムを導入し、自動化実験機器と協同で働かせることにより、ハイスループットかつ遠隔で細胞を「操作」「調べる」教育・研究環境を大学院に整備する。 また、国内外の大学や企業、研究機関等の共同研究等を通してデータサイエンスについて興味を持つ企業等との連携を進める。 ③4月～3月：前年度に任用した特任教員について、引き続き2年目も任用を継続し、専任化を進める計画とする。 ④5月～10月：未来工学研究科生命データサイエンス専攻（修士課程・博士後期課程）に、女性枠の入試制度を設け、女性研究者の比率を高める取組みを進める。現状、本学部第1期生の男女比は7:3であるが、これを大学院では5:5を目指す。 ⑤9月～10月：「未来工学部研究室インターンシップ」に参加した海外留学生を対象とした、未来工学研究科生命データサイエンス専攻（修士課程）への推薦入試制度を実施し、継続的な研究活動の実現及び留学生研究者の確保を推進する。 ⑥3月：未来工学部データサイエンス学科：第1期生卒業			
令和9年度	＜修士＞5人、＜修士＞45人、＜学士＞120人		R9年度自己評価	リストから選択してください。
	①4月～10月：計算機環境をフルに利用するような大規模計算によるデータサイエンスの大学院レベルでの教育・研究を加速する。併せて実験環境自動化によるバイオエンジニアリングの可能性と将来性について、実際に装置を利用しながら教育・研究を進める。 ②6月～12月：国内外大学との連携をさらに強化するとともに、自治体・地域との連携事業を加速する。			
○年度			○年度自己評価	リストから選択してください。
○年度			○年度自己評価	リストから選択してください。
○年度			○年度自己評価	リストから選択してください。
○年度			○年度自己評価	リストから選択してください。

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	北里大学
-------------	-------	-----	------

2.申請資格の確認

- 該当しない場合は、チェックしてください。
- i) 学生募集停止中の大学

該当無し

☒ チェック
- ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し

☒ チェック
- iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し

☒ チェック
- iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し

☒ チェック
- v) 大学、短期大学及び高等専門学校を設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し

☒ チェック

3.申請要件の取組状況

令和5年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、学部を置かない大学や新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。					
	<table><tr><td>確認を受けている</td><td>☒ チェック</td></tr><tr><td>対象に該当しない</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	確認を受けている	☒ チェック	対象に該当しない	☐ チェック	
確認を受けている	☒ チェック					
対象に該当しない	☐ チェック					
②	志願者数の状況や入学定員及び収容定員充足率等を踏まえた十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
④	特定成長分野のうちデジタル分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑤	計画の対象となる研究科・専攻等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑥	特定成長分野のうち情報系分野に係る研究科、専攻、コース等の設置・増員（研究科、専攻の定員の増員を伴わないものを含む。）、専攻に係る課程の変更（研究科、専攻、コース等の設置・増員及び専攻に係る課程の変更に伴う学部、学科、コース等の設置・増員（学部、学科の定員の増員を伴わないものを含む。）を含む。）（以下「研究科等の設置等」という。）による体制強化の計画であること。なお、コース等の設置・増員による体制強化の場合は、学則において、コース等の募集人員数を明記する計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る研究科等の設置等の取組であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑧	教育の実績を有する既設の情報系分野に係る研究科、専攻（授与する学位が、学位種類分野変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むものに限る。）を有する大学において、高度情報専門人材を育成する計画であること。（大学（特例枠）については、既設の情報系分野に係る学部、学科（授与する学位が、学位種類分野変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むものに限る。）を有する大学とする。）					
	<table><tr><td>既設の情報系分野に係る研究科等を有する</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	既設の情報系分野に係る研究科等を有する	☒ チェック			
既設の情報系分野に係る研究科等を有する	☒ チェック					
⑨	機構による事業計画の選定があった日から2年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる研究科等の設置等を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑩	計画の対象となる研究科等の設置等において、大学院修士課程（博士前期課程を含む。）15名以上又は大学院博士課程（博士後期課程を含む。）5名以上の入学定員の増員を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑪	国立大学について、大学全体の収容定員の増員を伴う学部定員の増員を行う場合は、国立大学法人の第5期中期目標期間終了時までには他学部・他学科を中心に同規模の定員減を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる、又は対象に該当しない</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる、又は対象に該当しない	☒ チェック			
計画通りに進んでいる、又は対象に該当しない	☒ チェック					
⑫	教員の確保・配置状況等を踏まえた実現可能性の高い計画になっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑬	文部科学省が実施する数理・データサイエンス・A I 教育プログラム認定制度における「応用基礎レベル」について、大学又は計画の対象となる学部若しくは計画の対象となる研究科に関連する主な学部が認定を受けている、又は認定を受ける計画があること。なお、学部を置かない大学で、本認定制度の対象に該当しないものについては、本要件は適用されない。					
	<table><tr><td>認定を受けている、又は対象に該当しない</td><td>☐ チェック</td></tr><tr><td>認定を受ける計画が進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	認定を受けている、又は対象に該当しない	☐ チェック	認定を受ける計画が進んでいる	☒ チェック	
認定を受けている、又は対象に該当しない	☐ チェック					
認定を受ける計画が進んでいる	☒ チェック					

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	北里大学
-------------	-------	-----	------

⑭	文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。	
	認定を受けておらず申請する意向もない	
	■ チェック	

4.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和5年度 の取組実績及び申請時の計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

①	地域において自治体や企業等と連携した取組を行う計画となっているか。							
	<table><tr><th>申請時の計画</th><th>取組実績、進捗状況</th><th>課題（理由）とその対応</th></tr><tr><td>各研究機関や企業との共同研究をはじめ、それらから派生する企業等との連携を活かし、学部教育におけるインターンシップや、大学院進学後の外部研究を視野に入れ、研究に限らず教育でも連携を進める計画としている。 併せて、本学では相模原市との連携事業を推進していることから、データサイエンスを活用した連携(医療分野や災害対策等)についても新たに推進を進める。また、既に本学医学部救急救命医学、相模原市消防局、ソフトバンク株式会社、凸版印刷株式会社と本学部との共同研究により、救命救急における映像伝送システムの開発に着手している。これは、救急隊による救急業務を大学病院との映像共有によりスムーズ目つスピーディーに実施するとともに、現場活動映像をビッグデータとして蓄積し、AI解析による救急業務の作業の効率化や安全化に繋がる新たな知見をもたらすための取組みである。また、高度なセキュリティ対策も行い、プライバシー情報を守り診療の質を担保することも目標としている。 このように、地域医療や防犯、防災等、データサイエンスを活用した地域貢献についても加加速度的に計画する。</td><td>インターンシップについては、開講は令和7（2025）年度となるが、1年生に予備調査として実際にインターンシップとして行きたい企業等についてアンケート調査を実施し、当該科目責任者を中心に協議を開始した。 医療分野や災害対策等へのデータサイエンスの活用に係る研究計画は順調に進んでおり、映像伝送システムのインフラの開発を主に行った。具体的には、スマートフォンを用いた映像通報、救命現場の映像録画、それらデータのクラウド上でのデータベース化を行うシステムを開発し、倫理計画の策定、映像からの個人情報消去の整備も併せて行った。AI開発では、救急出場記録データを用いた機械学習による救急出動予測のアルゴリズムを開発し、その有効性を確認した。 令和6（2024）年度はクラウド上に蓄積されたデータを用いて、映像からAIを用いて救急現場を解析する学習モデルの構築を行っていく。以上のように本研究計画は順調に進んでいる。</td><td></td></tr></table>	申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応	各研究機関や企業との共同研究をはじめ、それらから派生する企業等との連携を活かし、学部教育におけるインターンシップや、大学院進学後の外部研究を視野に入れ、研究に限らず教育でも連携を進める計画としている。 併せて、本学では相模原市との連携事業を推進していることから、データサイエンスを活用した連携(医療分野や災害対策等)についても新たに推進を進める。また、既に本学医学部救急救命医学、相模原市消防局、ソフトバンク株式会社、凸版印刷株式会社と本学部との共同研究により、救命救急における映像伝送システムの開発に着手している。これは、救急隊による救急業務を大学病院との映像共有によりスムーズ目つスピーディーに実施するとともに、現場活動映像をビッグデータとして蓄積し、AI解析による救急業務の作業の効率化や安全化に繋がる新たな知見をもたらすための取組みである。また、高度なセキュリティ対策も行い、プライバシー情報を守り診療の質を担保することも目標としている。 このように、地域医療や防犯、防災等、データサイエンスを活用した地域貢献についても加加速度的に計画する。	インターンシップについては、開講は令和7（2025）年度となるが、1年生に予備調査として実際にインターンシップとして行きたい企業等についてアンケート調査を実施し、当該科目責任者を中心に協議を開始した。 医療分野や災害対策等へのデータサイエンスの活用に係る研究計画は順調に進んでおり、映像伝送システムのインフラの開発を主に行った。具体的には、スマートフォンを用いた映像通報、救命現場の映像録画、それらデータのクラウド上でのデータベース化を行うシステムを開発し、倫理計画の策定、映像からの個人情報消去の整備も併せて行った。AI開発では、救急出場記録データを用いた機械学習による救急出動予測のアルゴリズムを開発し、その有効性を確認した。 令和6（2024）年度はクラウド上に蓄積されたデータを用いて、映像からAIを用いて救急現場を解析する学習モデルの構築を行っていく。以上のように本研究計画は順調に進んでいる。		
申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応						
各研究機関や企業との共同研究をはじめ、それらから派生する企業等との連携を活かし、学部教育におけるインターンシップや、大学院進学後の外部研究を視野に入れ、研究に限らず教育でも連携を進める計画としている。 併せて、本学では相模原市との連携事業を推進していることから、データサイエンスを活用した連携(医療分野や災害対策等)についても新たに推進を進める。また、既に本学医学部救急救命医学、相模原市消防局、ソフトバンク株式会社、凸版印刷株式会社と本学部との共同研究により、救命救急における映像伝送システムの開発に着手している。これは、救急隊による救急業務を大学病院との映像共有によりスムーズ目つスピーディーに実施するとともに、現場活動映像をビッグデータとして蓄積し、AI解析による救急業務の作業の効率化や安全化に繋がる新たな知見をもたらすための取組みである。また、高度なセキュリティ対策も行い、プライバシー情報を守り診療の質を担保することも目標としている。 このように、地域医療や防犯、防災等、データサイエンスを活用した地域貢献についても加加速度的に計画する。	インターンシップについては、開講は令和7（2025）年度となるが、1年生に予備調査として実際にインターンシップとして行きたい企業等についてアンケート調査を実施し、当該科目責任者を中心に協議を開始した。 医療分野や災害対策等へのデータサイエンスの活用に係る研究計画は順調に進んでおり、映像伝送システムのインフラの開発を主に行った。具体的には、スマートフォンを用いた映像通報、救命現場の映像録画、それらデータのクラウド上でのデータベース化を行うシステムを開発し、倫理計画の策定、映像からの個人情報消去の整備も併せて行った。AI開発では、救急出場記録データを用いた機械学習による救急出動予測のアルゴリズムを開発し、その有効性を確認した。 令和6（2024）年度はクラウド上に蓄積されたデータを用いて、映像からAIを用いて救急現場を解析する学習モデルの構築を行っていく。以上のように本研究計画は順調に進んでいる。							
②	初等中等教育段階の学校との連携に関する取組を行う計画となっているか。							
	<table><tr><th>申請時の計画</th><th>取組実績、進捗状況</th><th>課題（理由）とその対応</th></tr><tr><td>本学において協定を結んでいる高等学校をはじめ、近隣の小・中学校の中で、特に相模原市或いは神奈川県に所在する学校との連携を深める取組みを計画する。具体的には、本研究科・学部の専任教員及び大学院生を講師に出張講義として、プログラミングや生命データサイエンスに関する講義を年間5校程度を目標として実施する。実際にプログラミングとは何かを教えた後に、リテラシーとしてプログラミングができることが、どのように我々の生活を変えるのかについて講義し、プログラミングの学びをエンカレッジすることを旨とする。初等中等教育段階でのプログラミング教育は徐々に広まりつつはあるが、本学の特色である「生命科学」を含んだ内容は、本学独自の取組みとして高い受容を見込めると考える。また、これらの取組みにより大学院生が教育の実現場における指導経験や自身の研究内容をアウトプットする能力を醸成することができるとともに、教育現場におけるデータサイエンスの可能性を感じられる機会を創出でき、より高い教育効果を期待できる計画となる。</td><td>相模原市における高大接続の取組みとして、県立相模原高等学校の2年生を対象とした課題探求授業にプログラム（未来工学部からは3課題「人工知能でたんばく質をデザイン〜無限に広がる機能性タンパク質の世界〜」他2課題）を提供することし、令和6（2024）年度実施に向けた準備を開始した。 模擬講義についても関東圏内で数校実施（神奈川県 鎌倉学園）した。</td><td>未来工学部の教員がおおむね揃い、また、未来工学研究科博士課程が開設される令和8（2026）年度以降に本格的に実施していく計画とする。 出張講義については、学部の広報はもちろんであるが、まずはデータサイエンスという学問の認知を高めることが重要であると課題認識した。</td></tr></table>	申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応	本学において協定を結んでいる高等学校をはじめ、近隣の小・中学校の中で、特に相模原市或いは神奈川県に所在する学校との連携を深める取組みを計画する。具体的には、本研究科・学部の専任教員及び大学院生を講師に出張講義として、プログラミングや生命データサイエンスに関する講義を年間5校程度を目標として実施する。実際にプログラミングとは何かを教えた後に、リテラシーとしてプログラミングができることが、どのように我々の生活を変えるのかについて講義し、プログラミングの学びをエンカレッジすることを旨とする。初等中等教育段階でのプログラミング教育は徐々に広まりつつはあるが、本学の特色である「生命科学」を含んだ内容は、本学独自の取組みとして高い受容を見込めると考える。また、これらの取組みにより大学院生が教育の実現場における指導経験や自身の研究内容をアウトプットする能力を醸成することができるとともに、教育現場におけるデータサイエンスの可能性を感じられる機会を創出でき、より高い教育効果を期待できる計画となる。	相模原市における高大接続の取組みとして、県立相模原高等学校の2年生を対象とした課題探求授業にプログラム（未来工学部からは3課題「人工知能でたんばく質をデザイン〜無限に広がる機能性タンパク質の世界〜」他2課題）を提供することし、令和6（2024）年度実施に向けた準備を開始した。 模擬講義についても関東圏内で数校実施（神奈川県 鎌倉学園）した。	未来工学部の教員がおおむね揃い、また、未来工学研究科博士課程が開設される令和8（2026）年度以降に本格的に実施していく計画とする。 出張講義については、学部の広報はもちろんであるが、まずはデータサイエンスという学問の認知を高めることが重要であると課題認識した。	
申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応						
本学において協定を結んでいる高等学校をはじめ、近隣の小・中学校の中で、特に相模原市或いは神奈川県に所在する学校との連携を深める取組みを計画する。具体的には、本研究科・学部の専任教員及び大学院生を講師に出張講義として、プログラミングや生命データサイエンスに関する講義を年間5校程度を目標として実施する。実際にプログラミングとは何かを教えた後に、リテラシーとしてプログラミングができることが、どのように我々の生活を変えるのかについて講義し、プログラミングの学びをエンカレッジすることを旨とする。初等中等教育段階でのプログラミング教育は徐々に広まりつつはあるが、本学の特色である「生命科学」を含んだ内容は、本学独自の取組みとして高い受容を見込めると考える。また、これらの取組みにより大学院生が教育の実現場における指導経験や自身の研究内容をアウトプットする能力を醸成することができるとともに、教育現場におけるデータサイエンスの可能性を感じられる機会を創出でき、より高い教育効果を期待できる計画となる。	相模原市における高大接続の取組みとして、県立相模原高等学校の2年生を対象とした課題探求授業にプログラム（未来工学部からは3課題「人工知能でたんばく質をデザイン〜無限に広がる機能性タンパク質の世界〜」他2課題）を提供することし、令和6（2024）年度実施に向けた準備を開始した。 模擬講義についても関東圏内で数校実施（神奈川県 鎌倉学園）した。	未来工学部の教員がおおむね揃い、また、未来工学研究科博士課程が開設される令和8（2026）年度以降に本格的に実施していく計画とする。 出張講義については、学部の広報はもちろんであるが、まずはデータサイエンスという学問の認知を高めることが重要であると課題認識した。						
③	女子学生、社会人学生、留学生等の確保に向けた特色ある取組を行う計画となっているか。							
	<table><tr><th>申請時の計画</th><th>取組実績、進捗状況</th><th>課題（理由）とその対応</th></tr><tr><td>留学生の獲得のため、本学の協定校に働きかけ、特に環境問題に関心が深いと思われるアジアの各校から留学生を迎え「未来工学部研究室インターンシップ」の実施を計画する。海外の学部2・3年生をインターンシップ生として招き、本学の学生との間にデータサイエンスの学びにおいてシナジー効果を醸成する。加えて本制度に参加した学生を対象とした修士課程への推薦入試を設け、継続的な研究活動の実現及び留学生研究者の確保を目指す計画を推進する。博士後期課程に関しては、データサイエンスの加速が期待される分野について社会人入学の枠を設け、企業での本体業務に役立つデータサイエンスについての専門家を育てる。広く研究成果を公表する機会の創出に向け国際学会等への積極的な参加を促し旅費についても支援を行う。修士課程と博士後期課程において、女性枠を入試制度に設け、女性研究者の比率を高める取組みを行う計画とする。現状、本学部1期生の男女比は7:3であるが、これを大学院では5:5を目指す。また、本学では博士の学生を対象とした「女性研究者のための研究・育児両立支援助成金」を設けており、女性枠で入学した当該学生については、本制度の積極的な活用を推進し研究と育児の両立を支援していく。</td><td>「未来工学部研究室インターンシップ」については、令和7（2025）年度の計画実施に向け、令和6（2024）年度に着任するベトナム人の教員と担当者レベルで検討を開始した。一方で、本研究科大学院生の海外派遣についても検討を開始した。 また、女性枠入試は令和8年度以降の実施計画であるが、先端技術開発や革新的な研究において女性の活躍できる機会が拡がっており、さらに、グリーン・デジタル成長戦略での人材育成が急務であることから、この社会的ニーズに応えるため、修士課程の定員増の計画（令和8（2026）年度届出予定）に合わせ、女性枠の入試を計画する。</td><td></td></tr></table>	申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応	留学生の獲得のため、本学の協定校に働きかけ、特に環境問題に関心が深いと思われるアジアの各校から留学生を迎え「未来工学部研究室インターンシップ」の実施を計画する。海外の学部2・3年生をインターンシップ生として招き、本学の学生との間にデータサイエンスの学びにおいてシナジー効果を醸成する。加えて本制度に参加した学生を対象とした修士課程への推薦入試を設け、継続的な研究活動の実現及び留学生研究者の確保を目指す計画を推進する。博士後期課程に関しては、データサイエンスの加速が期待される分野について社会人入学の枠を設け、企業での本体業務に役立つデータサイエンスについての専門家を育てる。広く研究成果を公表する機会の創出に向け国際学会等への積極的な参加を促し旅費についても支援を行う。修士課程と博士後期課程において、女性枠を入試制度に設け、女性研究者の比率を高める取組みを行う計画とする。現状、本学部1期生の男女比は7:3であるが、これを大学院では5:5を目指す。また、本学では博士の学生を対象とした「女性研究者のための研究・育児両立支援助成金」を設けており、女性枠で入学した当該学生については、本制度の積極的な活用を推進し研究と育児の両立を支援していく。	「未来工学部研究室インターンシップ」については、令和7（2025）年度の計画実施に向け、令和6（2024）年度に着任するベトナム人の教員と担当者レベルで検討を開始した。一方で、本研究科大学院生の海外派遣についても検討を開始した。 また、女性枠入試は令和8年度以降の実施計画であるが、先端技術開発や革新的な研究において女性の活躍できる機会が拡がっており、さらに、グリーン・デジタル成長戦略での人材育成が急務であることから、この社会的ニーズに応えるため、修士課程の定員増の計画（令和8（2026）年度届出予定）に合わせ、女性枠の入試を計画する。		
申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応						
留学生の獲得のため、本学の協定校に働きかけ、特に環境問題に関心が深いと思われるアジアの各校から留学生を迎え「未来工学部研究室インターンシップ」の実施を計画する。海外の学部2・3年生をインターンシップ生として招き、本学の学生との間にデータサイエンスの学びにおいてシナジー効果を醸成する。加えて本制度に参加した学生を対象とした修士課程への推薦入試を設け、継続的な研究活動の実現及び留学生研究者の確保を目指す計画を推進する。博士後期課程に関しては、データサイエンスの加速が期待される分野について社会人入学の枠を設け、企業での本体業務に役立つデータサイエンスについての専門家を育てる。広く研究成果を公表する機会の創出に向け国際学会等への積極的な参加を促し旅費についても支援を行う。修士課程と博士後期課程において、女性枠を入試制度に設け、女性研究者の比率を高める取組みを行う計画とする。現状、本学部1期生の男女比は7:3であるが、これを大学院では5:5を目指す。また、本学では博士の学生を対象とした「女性研究者のための研究・育児両立支援助成金」を設けており、女性枠で入学した当該学生については、本制度の積極的な活用を推進し研究と育児の両立を支援していく。	「未来工学部研究室インターンシップ」については、令和7（2025）年度の計画実施に向け、令和6（2024）年度に着任するベトナム人の教員と担当者レベルで検討を開始した。一方で、本研究科大学院生の海外派遣についても検討を開始した。 また、女性枠入試は令和8年度以降の実施計画であるが、先端技術開発や革新的な研究において女性の活躍できる機会が拡がっており、さらに、グリーン・デジタル成長戦略での人材育成が急務であることから、この社会的ニーズに応えるため、修士課程の定員増の計画（令和8（2026）年度届出予定）に合わせ、女性枠の入試を計画する。							
④	他の大学（外国大学を含む。）・高等専門学校等と連携した取組を行う計画となっているか。							
	<table><tr><th>申請時の計画</th><th>取組実績、進捗状況</th><th>課題（理由）とその対応</th></tr><tr><td>ライフサイエンス系で既に協力関係にある藤田医科大学、杏林大学などとデータサイエンス科目について単位互換などの制度を充実させる。特に、データサイエンスの考え方がどのように生命科学や医療の現場で役立つのかについて具体的な例を通して理解してもらうことで、協力関係にある大学でのデータサイエンス教育を加速することを目指す。また、包括連携協定を結んでいる慶應義塾大学とは情報科学や医学面での教育・研究協力を進める。そのために特任教員などの制度を利用し、研究交流を加速させる。北里のデータサイエンスが十分にカバーできていないVR、AR、MRについての連携を進めることは、今後の医療データサイエンス研究を考える上で重要となる。また、データ駆動型の加工技術など今後の未来工学部及び研究科の展開を考える上で重要な分野についても連携を深める予定である。北里大学が協定を結んでいる海外45協定校に働きかけることにより、教育・研究連携を加速させ、既に人的交流が盛んであるローベルトコッホ研究所やエジンバラ大学についても研究交流を進める計画とする。</td><td>令和5（2023）年2月に、研究力加速の一環として、Academia Sinica（台湾）でのインターンシップの実施について担当者間で合意した（令和6（2024）年度に夏期休暇を利用し大学院生を派遣予定）。また、CSIRO（豪州連邦科学産業研究機構のデータサイエンス部門Data61）との連携（学生派遣の可能性を含め）について先方の担当者との検討を開始した。</td><td>単位互換制度の充実については、未来工学部データサイエンス学科の完成年度後である令和9（2027）年度に向けて実施できるよう準備を進める。 慶應義塾大学との包括連携協定に基づき、令和6（2024）年度に一部研究室において慶應義塾大学の大学院生を研究生として受入れ、学位論文指導及び研究交流を進めている。 海外の大学との交流については、他研究機関も視野に入れて引き続き検討を進める。</td></tr></table>	申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応	ライフサイエンス系で既に協力関係にある藤田医科大学、杏林大学などとデータサイエンス科目について単位互換などの制度を充実させる。特に、データサイエンスの考え方がどのように生命科学や医療の現場で役立つのかについて具体的な例を通して理解してもらうことで、協力関係にある大学でのデータサイエンス教育を加速することを目指す。また、包括連携協定を結んでいる慶應義塾大学とは情報科学や医学面での教育・研究協力を進める。そのために特任教員などの制度を利用し、研究交流を加速させる。北里のデータサイエンスが十分にカバーできていないVR、AR、MRについての連携を進めることは、今後の医療データサイエンス研究を考える上で重要となる。また、データ駆動型の加工技術など今後の未来工学部及び研究科の展開を考える上で重要な分野についても連携を深める予定である。北里大学が協定を結んでいる海外45協定校に働きかけることにより、教育・研究連携を加速させ、既に人的交流が盛んであるローベルトコッホ研究所やエジンバラ大学についても研究交流を進める計画とする。	令和5（2023）年2月に、研究力加速の一環として、Academia Sinica（台湾）でのインターンシップの実施について担当者間で合意した（令和6（2024）年度に夏期休暇を利用し大学院生を派遣予定）。また、CSIRO（豪州連邦科学産業研究機構のデータサイエンス部門Data61）との連携（学生派遣の可能性を含め）について先方の担当者との検討を開始した。	単位互換制度の充実については、未来工学部データサイエンス学科の完成年度後である令和9（2027）年度に向けて実施できるよう準備を進める。 慶應義塾大学との包括連携協定に基づき、令和6（2024）年度に一部研究室において慶應義塾大学の大学院生を研究生として受入れ、学位論文指導及び研究交流を進めている。 海外の大学との交流については、他研究機関も視野に入れて引き続き検討を進める。	
申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応						
ライフサイエンス系で既に協力関係にある藤田医科大学、杏林大学などとデータサイエンス科目について単位互換などの制度を充実させる。特に、データサイエンスの考え方がどのように生命科学や医療の現場で役立つのかについて具体的な例を通して理解してもらうことで、協力関係にある大学でのデータサイエンス教育を加速することを目指す。また、包括連携協定を結んでいる慶應義塾大学とは情報科学や医学面での教育・研究協力を進める。そのために特任教員などの制度を利用し、研究交流を加速させる。北里のデータサイエンスが十分にカバーできていないVR、AR、MRについての連携を進めることは、今後の医療データサイエンス研究を考える上で重要となる。また、データ駆動型の加工技術など今後の未来工学部及び研究科の展開を考える上で重要な分野についても連携を深める予定である。北里大学が協定を結んでいる海外45協定校に働きかけることにより、教育・研究連携を加速させ、既に人的交流が盛んであるローベルトコッホ研究所やエジンバラ大学についても研究交流を進める計画とする。	令和5（2023）年2月に、研究力加速の一環として、Academia Sinica（台湾）でのインターンシップの実施について担当者間で合意した（令和6（2024）年度に夏期休暇を利用し大学院生を派遣予定）。また、CSIRO（豪州連邦科学産業研究機構のデータサイエンス部門Data61）との連携（学生派遣の可能性を含め）について先方の担当者との検討を開始した。	単位互換制度の充実については、未来工学部データサイエンス学科の完成年度後である令和9（2027）年度に向けて実施できるよう準備を進める。 慶應義塾大学との包括連携協定に基づき、令和6（2024）年度に一部研究室において慶應義塾大学の大学院生を研究生として受入れ、学位論文指導及び研究交流を進めている。 海外の大学との交流については、他研究機関も視野に入れて引き続き検討を進める。						

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	北里大学
-------------	-------	-----	------

2.申請資格の確認

- 該当しない場合は、チェックしてください。
- i) 学生募集停止中の大学

該当無し

☒ チェック
- ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し

☒ チェック
- iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し

☒ チェック
- iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し

☒ チェック
- v) 大学、短期大学及び高等専門学校を設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し

☒ チェック

3.申請要件の取組状況

令和6年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、学部を置かない大学や新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。					
	<table><tr><td>確認を受けている</td><td>☒ チェック</td></tr><tr><td>対象に該当しない</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	確認を受けている	☒ チェック	対象に該当しない	☐ チェック	
確認を受けている	☒ チェック					
対象に該当しない	☐ チェック					
②	志願者数の状況や入学定員及び収容定員充足率等を踏まえた十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
④	特定成長分野のうちデジタル分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑤	計画の対象となる研究科・専攻等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑥	特定成長分野のうち情報系分野に係る研究科、専攻、コース等の設置・増員（研究科、専攻の定員の増員を伴わないものを含む。）、専攻に係る課程の変更（研究科、専攻、コース等の設置・増員及び専攻に係る課程の変更に伴う学部、学科、コース等の設置・増員（学部、学科の定員の増員を伴わないものを含む。）を含む。）（以下「研究科等の設置等」という。）による体制強化の計画であること。なお、コース等の設置・増員による体制強化の場合は、学則において、コース等の募集人員数を明記する計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る研究科等の設置等の取組であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑧	教育の実績を有する既設の情報系分野に係る研究科、専攻（授与する学位が、学位種類分野変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むものに限る。）を有する大学において、高度情報専門人材を育成する計画であること。（大学（特例枠）については、既設の情報系分野に係る学部、学科（授与する学位が、学位種類分野変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むものに限る。）を有する大学とする。）					
	<table><tr><td>既設の情報系分野に係る研究科等を有する</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	既設の情報系分野に係る研究科等を有する	☒ チェック			
既設の情報系分野に係る研究科等を有する	☒ チェック					
⑨	機構による事業計画の選定があった日から2年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる研究科等の設置等を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑩	計画の対象となる研究科等の設置等において、大学院修士課程（博士前期課程を含む。）15名以上又は大学院博士課程（博士後期課程を含む。）5名以上の入学定員の増員を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑪	国立大学について、大学全体の収容定員の増員を伴う学部定員の増員を行う場合は、国立大学法人の第5期中期目標期間終了時まで到他学部・他学科を中心に同規模の定員減を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる、又は対象に該当しない</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる、又は対象に該当しない	☒ チェック			
計画通りに進んでいる、又は対象に該当しない	☒ チェック					
⑫	教員の確保・配置状況等を踏まえた実現可能性の高い計画になっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑬	文部科学省が実施する数理・データサイエンス・A I 教育プログラム認定制度における「応用基礎レベル」について、大学又は計画の対象となる学部若しくは計画の対象となる研究科に関連する主な学部が認定を受けている、又は認定を受ける計画があること。なお、学部を置かない大学で、本認定制度の対象に該当しないものについては、本要件は適用されない。					
	<table><tr><td>認定を受けている、又は対象に該当しない</td><td>☒ チェック</td></tr><tr><td>認定を受ける計画が進んでいる</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	認定を受けている、又は対象に該当しない	☒ チェック	認定を受ける計画が進んでいる	☐ チェック	
認定を受けている、又は対象に該当しない	☒ チェック					
認定を受ける計画が進んでいる	☐ チェック					

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	北里大学
-------------	-------	-----	------

⑭	文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。	
	認定を受けておらず申請する意向もない	
	■ チェック	

4.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和6年度 の取組実績及び申請時の計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

①	地域において自治体や企業等と連携した取組を行う計画となっているか。		
	申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
	各研究機関や企業との共同研究をはじめ、それらから派生する企業等との連携を活かし、学部教育におけるインターンシップや、大学院進学後の外部研究を視野に入れ、研究に限らず教育でも連携を進める計画としている。 併せて、本学では相模原市との連携事業を推進していることから、データサイエンスを活用した連携(医療分野や災害対策等)についても新たに推進を進める。また、既に本学医学部救急救命医学、相模原市消防局、ソフトバンク株式会社、凸版印刷株式会社と本学部との共同研究により、救命救急における映像伝送システムの開発に着手している。これは、救急隊による救急業務を大学病院との映像共有によりスムーズ目ツスピーディーに実施するとともに、現場活動映像をビッグデータとして蓄積し、AI解析による救急業務の作業の効率化や安全化に繋がる新たな知見をもたらすための取組みである。また、高度なセキュリティ対策も行い、プライバシー情報を守り診療の質を担保することも目標としている。 このように、地域医療や防犯、防災等、データサイエンスを活用した地域貢献についても加速度的に計画する。	3年生向けの科目「インターンシップ」については、2023（令和5）年に実施したインターンシップ予備調査、及び2024（令和6）年の進路意向調査において、学生の希望する業種や職種に関する詳細なアンケートを実施した。その結果をもとに、当該科目責任者を中心に学部内での協議を重ね、学生の関心や将来のキャリア形成に資する受け入れ先の選定を進めてきた。その成果として、2025（令和7）年度には、計9社の企業から協力を得るに至り、実践的な学びの場を提供できる体制が整った。これら企業は、IT・情報通信、製造、医療、コンサルティング等、多様な業種にわたり、データサイエンスの知識や分析スキルを活用する実践的な場として、学生がの課題解決やデータ活用のプロセスを体験できる貴重な機会となっている。今後、学生のニーズと社会の要請を的確に捉えたインターンシップの設計・運営を通して、実践力とキャリア意識の醸成を図っていく。 2024（令和6）年度は、救急現場のリアルタイム映像共有システムを活用した映像記録データを対象に、マルチモーダルLLMを用いたAI解析研究を推進した。特に、救急隊員が現場で実施した処置内容や患者の状況を効率的かつ正確に要約し、病院の医師への申し送り時間を短縮することを目指した。具体的にはメタプロンプトエンジニアリング手法を導入し、救急医が作成した要約文を正解データとしてプロンプト最適化を繰り返した。この方法により要約タスクでは一定の精度で安定した結果が得られたが、医師への申し送りタスクにおいては精度改善の課題が残された。今後はプロンプトエンジニアリングのさらなる改善、使用データの量的・質的拡充を図るとともに、AI解析成果を地域の救急医療現場に還元し、救急サービスの質向上および業務効率化を推進する計画である。	
②	初等中等教育段階の学校との連携に関する取組を行う計画となっているか。		
	申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
	本学において協定を結んでいる高等学校をはじめ、近隣の小・中学校の中で、特に相模原市或いは神奈川県に所在する学校との連携を深める取組みを計画する。具体的には、本研究科・学部の専任教員及び大学院生を講師に出張講義として、プログラミングや生命データサイエンスに関する講義を年間5校程度を目標として実施する。実際にプログラミングとは何かを教えた後に、リテラシーとしてプログラミングができることが、どのように我々の生活を変えるのかについて講義し、プログラミングの学びをエンカレッジすることを目指す。初等中等教育段階でのプログラミング教育は徐々に広まりつつはあるが、本学の特色である「生命科学」を含んだ内容は、本学独自の取組みとして高い受容を見込めると考える。また、これらの取組みにより大学院生が教育の実現場における指導経験や自身の研究内容をアウトプットする能力を醸成することができることも、教育現場におけるデータサイエンスの可能性を感じられる機会を創出でき、より高い教育効果を期待できる計画となる。	2024（令和6）年度においては、神奈川県内の高等学校3校（神奈川県立市ケ尾高等学校、横浜平沼高等学校、鎌倉学園中学校・高等学校）において、模擬講義を実施した。 2026（令和8）年から北里大学の系列校となる予定の順天高等学校とは、すでに交流が開始されており、2024（令和6）年9月には、同校のイベント「Global Week」に参加した。学部長及び広報委員長が訪問し、学部の概要やデータサイエンス分野の重要性について説明する機会を得た。さらに、2025（令和7）年3月には、大学全体の行事として、順天高等学校の教員による「高等学校における情報教育」に関する講演会が開催され、大学におけるデータサイエンス教育の推進に資する貴重な機会となった。 また、未来工学部に限らず、学問分野としてのデータサイエンスの認知度を高めることが重要であるとの認識のもと、高等学校教員向け進路支援ツール「高校生のためのデータサイエンスガイド」を広告会社と連携して作成した。今後も、高校生に響く広報活動を積極的に推進していく。	高校等との教育研究に関する連携については、未来工学部の教員がおおむね揃い、また、未来工学研究科博士課程が開設される令和8（2026）年度以降に本格的に実施していく計画とする。
③	女子学生、社会人学生、留学生等の確保に向けた特色ある取組を行う計画となっているか。		
	申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
	留学生の獲得のため、本学の協定校に働きかけ、特に環境問題に関心が深いと思われるアジアの各校から留学生を迎え「未来工学部研究室インターンシップ」の実施を計画する。海外の学部2・3年生をインターンシップ生として招き、本学の学生との間にデータサイエンスの学びにおいてシナジー効果を醸成する。加えて本制度に参加した学生を対象とした修士課程への推薦入試を設け、継続的な研究活動の実現及び留学生研究者の確保を目指す計画を推進する。博士後期課程に関しては、データサイエンスの加速が期待される分野について社会人入学の枠を設け、企業での本体業務に役立つデータサイエンスについての専門家を育てる。広く研究成果を公表する機会への創出に向け国際学会等への積極的な参加を促し旅費についても支援を行う。修士課程と博士後期課程において、女性枠を入試制度に設け、女性研究者の比率を高める取組みを行う計画とする。 現状、本学部1期生の男女比は7:3であるが、これを大学院では5:5を目指す。また、本学では博士の学生を対象とした「女性研究者のための研究・育児両立支援助成金」を設けており、女性枠で入学した当該学生については、本制度の積極的な活用を推進し研究と育児の両立を支援していく。	インドネシアのガジャマダ大学との協議を進めた結果、2025（令和7）年6月に正式に学術交流協定（MoA）を締結する運びとなった。同年7～8月頃には、約2週間の期間で未来工学部の研究室にインターンシップ生を受け入れる予定である。滞在中に取組むテーマはデータサイエンス教育を主軸とし、受入教員との協議のうえで決定する。 研究室配属を控えた学部3年生や、研究室に所属する大学院生との小規模ながらも密な交流を研究室単位で進めるとともに、本学部の北里会（情報技術部）との活動交流やセミナーの実施など、学術的・文化的な広がりを持たせた交流を推進する。滞在中終了時には、学生及び教員が出席する報告会を開催し、データサイエンス教育における実りある国際交流を展開する予定である。 2025（令和7）年3月に、女性枠入試を実施することを盛り込み、博士後期課程の設置認可申請を行った。8月末に設置が認可されれば、その後入試の実施、学生確保に取り組む。 また、修士課程の定員増の計画（令和8（2026）年度届出予定）に合わせ、女性枠の入試を計画している。	
④	他の大学（外国大学を含む。）・高等専門学校等と連携した取組を行う計画となっているか。		
	申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
	ライフサイエンス系で既に協力関係にある藤田医科大学、杏林大学などとデータサイエンス科目について単位互換などの制度を充実させる。特に、データサイエンスの考え方がどのように生命科学や医療の現場で役立つのかについて具体的な例を通じて理解してもらうことで、協力関係にある大学でのデータサイエンス教育を加速することを目指す。また、包括連携協定を結んでいる慶應義塾大学とは情報科学や医学面での教育・研究協力を進める。そのために特任教員などの制度を利用し、研究交流を加速させる。北里のデータサイエンスが十分にカバーできていないVR、AR、MRについての連携を進めることは、今後の医療データサイエンス研究を考える上で重要となる。また、データ駆動型の加工技術など今後の未来工学部及び研究科の展開を考える上で重要な分野についても連携を深める予定である。北里大学が協定を結んでいる海外45協定校に働きかけることにより、教育・研究連携を加速させ、既に人的交流が盛んであるローベルトコッホ研究所やエジンバラ大学についても研究交流を進める計画とする。	慶應義塾大学との連携については、包括連携協定に基づき、一部の研究室において引き続き、同大学の大学院生を研究生として受け入れ、学位論文の指導及び研究交流を進めている。 国外大学との連携については、③に記載のとおり、インドネシアのガジャマダ大学との間で学術交流協定を締結する予定である。また、台湾のAcademia Sinicaにおける研究活動インターンシップの実施についても合意に至っており、2024（令和6）年度には、7～8月、翌年2～3月の2回にわたり、修士課程の学生1名を派遣し、教育・研究活動における連携を図っている。	単位互換制度の充実については、未来工学部データサイエンス学科の完成年度後である令和9（2027）年度に向けて実施できるよう準備を進める。

大学名	北里大学	改組内容	研究科等の設置・増員＋学部等の設置・増員（特例枠）
-----	------	------	---------------------------

本事業対象となる研究科等の個数	1
-----------------	---

1.本事業対象となる情報系組織の状況

1-1. 博士課程

<内訳>

(1)

改組組織名	未来工学研究科生命データサイエンス専攻
-------	---------------------

[illegible]

大学名	北里大学	改組内容	研究科等の設置・増員＋学部等の設置・増員（特例枠）
-----	------	------	---------------------------

本事業対象となる学部等の個数	1
----------------	---

1.本事業対象となる情報系組織の状況

1-3. 学士課程

<内訳>

(1)

改組組織名	未来工学部データサイエンス学科
-------	-----------------

[illegible]

大学名	北里大学	改組内容	研究科等の設置・増員＋学部等の設置・増員（特例枠）
-----	------	------	---------------------------

3－3.学士課程

年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	1,783	1,944	1,924																
		入学者数	人	1,817	1,962	1,947																
	その他の学期	入学定員	人	***	***	***																
		入学者数	人	***	***	***																
	入学者合計	入学定員(A)	人	1,783	1,944	1,924	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学者数(B)	人	1,817	1,962	1,947	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.02	1.01	1.01	※※※	※※※	※※※	※※※	※※※	※※※	※※※	※※※	※※※	※※※	※※※	※※※	※※※	※※※	※※※	※※※
	収容定員等	収容定員(C)	人	7,811	8,078	8,055																
		編入学定員	人	***	***	***																
		在籍者数(D)	人	8,032	8,208	8,280																
		編入学者数	人	***	***	***																
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.03	1.02	1.03																

4.外部資金の状況（全学）

年度		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
項目	単位																			
外部資金獲得額	千円	1,352,228	1,283,559																	

特記事項